

パネルディスカッション
「小児の放射線治療とプレパレーション」
Radiation therapy and psychological preparation for
the pediatric cancer patients

武澤 友弘

Tomohiro TAKEZAWA

広島大学病院看護部

Hiroshima University Hospital Nursing Department

小児がんの治療は、多剤併用化学療法、放射線療法、手術療法、造血細胞移植などの集学的治療を要する。これらの治療によって、生存率は向上し多くの子どもが治癒するようになった。しかし、これらの治療は容易ではなく、子どもと家族への不安は図りしれない。そのため、発達段階に応じた説明を行い、納得した上で治療を進めることが重要である。また、子どもに付き添う家族にとっても放射線治療の環境が十分に理解できないと恐怖感を抱かせる可能性もあるため、子どもと家族が安心して治療を受けられるように多職種と連携して放射線治療のプレパレーションを行っている。

放射線治療は、治療科看護師が担当している。2019年まで治療科看護師は、病棟での子どもの様子について把握することが難しく病棟看護師は、治療室での子どもの様子について十分把握することができていなかった。そこで、2019年より病棟看護師、治療科看護師間で子どもと家族について共通理解をするために合同カンファレンスを開催することとした。そこでは、子どもと家族の治療への意思決定支援や治療完遂への支援、ケアの統一の共通認識を行っている。合同カンファレンスを通して、治療中の子どもと家族が安心して治療を継続できるようになっている。

病棟看護師の放射線看護に対する教育も必要であるため、勉強会や実際に治療環境を体験できる見学ツアーを企画し実施している。特に放射線治療の見学ツアーは、治療を行っている子どもの心理面について理解を深めることができ、子どもと家族への説明に活かされるようになっている。このような学習する機会を企画することで、看護師個人のスキルアップに繋がると考えている。そのため、今後も合同カンファレンスや看護師への教育を継続して行っていきたい。さらには、放射線治療に関わる職種に対して、子どもの理解が深められるような取り組みを行っていきたいと考えている。